

被爆体験講話

…次代につないでいくために

昨日、長崎平和推進協議会の八木道子さんをお招きして、被爆体験講話を行いました。八木さんとはご縁があり、以前、別の学校でもお世話になりました。



八木さんは元教師でもあり、生徒たちに対する思いは、また違ったものがあつたのではないかと思います。わかりやすく、しかし、被爆の実情をしっかりと伝えてくださいました。



冒頭、私も自分の経験を少し話しました。今から30年以上前のことですが、離島の学校に勤務していた時、その学校は8月9日が登校日ではありませんでした。どうしてこの日が登校日でないのかと質問した私に、当時の校長先生は「平和学習は年間を通じてやっているから、敢えて8月9日にする必要はない」と説明しました。

今では県内全ての小中学校、ほとんどの高校が8月9日を登校日にし、その日に平和について考える取組を行っています。なぜそのような変わっていったのか、その意義をしっかりと考えてほしいと思います。八木さんもおっしゃいましたが、大切なことは8月9日に起きた事実を、しっかりと次の世代に伝えていくことで、2度と戦争を起こさないようにすることです。

今回は残念ながら、新型コロナウイルス感染症対策として、体育館で講話を聴いたのは3年生だけでしたが、その様子は録画していますので、後日1・2年生にも聞いてもらいます。共に考え、共に行動してもらいたいものです。

なお、生徒たちが最初から最後まで真剣に話を聞いていたこと、八木さんに対する接待の態度等、八木さんは大いに感動し「すばらしい生徒さんたちですね」とお褒めの言葉を頂きました。生徒たちの成長を感じた1日もでもありました。

気づく目↓

主体的に行動する

先週あたりから湿度がまし、梅雨もそろそろ終りを迎えているなど感じます。

そのような中、教室には冷房が入っています。廊下はさすがに暑いですが、教室前の廊下の窓は開けられていますが、特別教室前の廊下の窓は閉められたままのことが多かったです。そこで、ある生徒たちにお願ひして、朝登校したら開け、帰りに閉めるという作業をお願いしました。二人の生徒は快く引き受けてくれ、毎日、朝と帰りに校長室まで報告に来てくれます。

「この窓が開いていると少し涼しくなるな」と気づく目を持つてほしいと思います。日常生活の中が、そのようなことはたくさんあります。

掃除をするとき、どうすれば素早く隅々まできれいできるか。プリントを数える時、どのように協力すれば素早く正確に数えることができるか。友達が休んでいる。授業で配られたプリントをどうすればよいか。

気づいて自ら(主体的に)行動する。そういう人は、どんどん成長していきます。学習だけでなく、運動はもちろん、何より人間として成長していくことができます。

先ほどの一人は、もう一人の生徒が報告を忘れていたということを知ると「僕が(報告に行くように)言っておきますよ」と自ら言ってくれました。これです。

一言

八木さんにもお褒めいただいたように、生徒たちは気持ちのいい挨拶をしてくれます。その様子を見ていて気持ちがいいです。かかとです。

かかとがきちんとくっついていて、とても丁寧で、そして人物として引き締まった感じがします。つまりとても印象がいいのです。頭の下げ方にしても、「下げ・止める・上げる・止める」と動作にメリハリをつけると、「この人はしゅきつとしていいるな」と感じます。もう一段上の挨拶を目指しましょう。